

### 第二回

### 「行政懇談会」



【十月十七日】

昨年が続いて、多数の方が参加され、盛況で有意義な会となりました。今年度は、日頃の生活に密着した意見が多く出されました。市長をはじめ市の幹部職員の方もとても前向きに対応されました。粟井地区民のまじめさに、度々言及されたのが印象的でした。粟井のみならず、「自分達はこんな努力をしているのだが、ここはもう少しどうにかならぬだろうか。」といったような意見で、とても好感をもって受け止めて頂きました。後日の市の検討結果の知らせがとも楽しみで、不満や批判や要求だけでなく、住民が市と協働で作り上げていく活動へと進化してきています。

話題になったことは、①美作市の水道料金②自立やウターを促す農業所得③獣害対策④学校の維持費と安全点検⑤グラウンド整備器具⑥子ども育成⑦子どもへの読み聞かせや子育て支援⑧美作市のスポーツイベント開催⑨健康寿命とスポーツ⑩子育て世代とごみ収集⑪中学校の部活とスクールバス時刻⑫協働バスの本数と病院がよいの不便⑬移住定住政策の現況と課題⑭能登香の家の老朽化対策と風呂の設置⑮市道の小房から久賀への新設・拡幅⑯能登香の湯の老朽化対策⑰コミュニケーション・助成事業と美作市自治創生事業交付金の課題……等多岐に渡りました。詳しくは後日、答弁と合わせて市のホームページに掲載されます。

### 粟井地区村創りの会理事会

【十月二十二日】



理事会理事21名中、過半数の11名が危うい状況でしたが、なんとか15名を確保し、(欠席6名)理事会が成立しました。議題と決定したことは、①会則にかわり規約を順守する運営について、どちらも不備があるので早急に結論を出さず、理事の定義づけをし、会則と規約の両方を知識の有る人に改正して頂き改めて判断する。副会長は、規約通り3名とし、一人は森本利美氏、もう一人は、3月までに確保する。事務局は、当初の3人で再度やる。企画会を廃止し三役会(王区長を含む)をきちんと定義づけ運営していく。来年の活動計画には、「粟井地区村創りの会」の目的を明確にする。②規約に伴う理事の加入について、事務局の赤星賢太郎氏を理事に加える。理事会のメンバー構成を検討し、より動きやすくすることについては、検討が持ち越された。③粟井地区村創りの会の組織改編について、農水部以外の部は、来年度から廃止する方向で検討していく。スリム化を図る。活動実態のある部のみにしていく。「高齢者支援サポートセンター」は、社協の協力を待って社協に移す。村創りの会の活動は、設立趣旨や粟井地区の現況を考慮した有意義な活動にしていく。④今年度「収穫祭」を取りやめ、新たに「感謝祭」を提案する。年度当初の計画では観光部が企画・提案し、村創りの会主催で11月6日に行う予定だった「収穫祭」が出来なくなった経緯が説明され、改めて新しく「感謝祭」を委員会形式で行うことが了承された。⑤「感謝祭」の開催要項等の作成。「感謝祭」の開催要項の素案づくりが行われた。10月29日に実行委員会を行うことを決める。感謝祭開催日は、11月20日(日)、粟井小学校とその周辺にて開催する企画が出来た。

### エゴマの収穫が終わりました。



十月二十二日、彩葉茶屋の支配人と、今年度のエゴマとエゴマ油の販売価格等について協議しました。販売方法についても「ふるさと納税」の返礼品に加えることが決まりました。

また、十一月二日、彩葉茶屋支配人とエゴマ油の製造者、生産者の三者会議を行い、製造方法等について取り決めました。

今年度は7人ですが、「粟井エゴマの会」(代表・松井昇)が誕生しました。会員を増やし、楽しく健康な会にしていきたいです。

### 粟井地区自治振興協議会役員会

【十月二十八日】



今年度、粟井自治振興協議会と区長協議会(行政事務連絡協議会)が一本化し、粟井地区自治振興協議会となりました。名実ともに、粟井地区の最高審議機関です。役員会での決定事項は、区長から総代へ、総代から各戸へ、と連絡されていきます。今回の議題は、①「美作市自治創生事業交付金」の決定と今後の活動について行政の後押しをいよいよ校舎の活用が次の段階に進みます。②事業部の統廃合について、4月より「児童生徒支援部」が「子ども教育部」に名称が変わります。中学生以下の幼児児童、生徒とその保護者で組織されます。③「花いっぱい運動」について、11月5日学校で花を植えます。④第2回行政懇談会の反省について、今回の発言は、自分達でしている活動を述べ、少しの援助を要請したことが良かった。好感を持って受け入れられた。発言が聞こえない事があったので、大きな声で言う。⑤環境整備作業の反省、能登香の家の草刈りについては方法の検討が必要。おやつ、飲み物の配布が負担になってはいないか。⑥「感謝祭」への自治振としての参加について、組織として参加し、開催を強力に支援していく。⑦粗大ごみ等の収集について、市に要望していく。協議以外では、校舎利活用の「要望書」は、担当区長が中心となり、より具体的な要望事項を整理し、提案し、地区の意見を取りまとめたい。

### 感謝祭 実行委員会

【十月二十九日】



実行委員会では、最初に役員選出があり、実行委員長に粟井老人クラブ連合会会長の池田 篤氏、副委員長に、粟井地区自治振興協議会会長の原知行氏と粟井地区村創りの会会長の安東寿夫氏が選出されました。事務局は自治振が、実働部隊は村創りの会が、それぞれ担っていきます。

粟井地区の全ての組織と団体が連携して感謝祭を盛り上げ、地域の活性化に寄与していくことが確認されました。

住民一人ひとりが粟井村の主役です。地区内住民の積極的参加を願っています。